

公告 昭35. 10. 29 出願 昭38. 4. 9 実願 昭38-17666

考 案 者	山 際 洋 一	茅ヶ崎市新町6の6044.
同	柳 沢 瑋 匡	平塚市八幡101パイロット万年筆
同	山 田 芳 信	株式会社平塚工場内
出 願 人	パイロット万年筆株式	名古屋市中村区牧野町8の39
代理人 弁理士	会社 市 川 一 男	東京都中央区京橋2の7番地8
		(全1頁)

フ エ ル ト ペ ン

図 面 の 略 解

才1図は本案の断面図、才2図は才1図A-A線相当部分の断面、才3図は同B-B線相当部分の断面図である。

実 用 新 案 の 説 明

本案はインキ収容筒1にその口部2から外方に突出せしめ筒内に於ては筒底3と所要間隔を有せしめたフェルト保持管4を嵌設し、このフェルト保持管4内に通気間隙5を有せしめて基端6を筒底3に嵌設したフェルト板7に接続せしめたフェルト体8を挿入し、又フェルト保持管4はその基端6でフェルト体8を咬持せしめると共に一部に通気孔9を穿設する。

収容筒1の口部2に於てフェルト保持管4にパッキング10を密嵌し、その外側に口筒11を螺嵌緊定し蓋12を被嵌するものとする。尚13はインキ収容筒口部2に穿設した緩孔であつて本案製作の際フェルト保持管4、フェルト体8及びフェルト板7の挿嵌用であると共にインキ補給の際に口筒11及びパッキング10を取外しこの緩孔13からインキを注入するものである。

尚本案に於けるフェルト体8は全体的に同質の

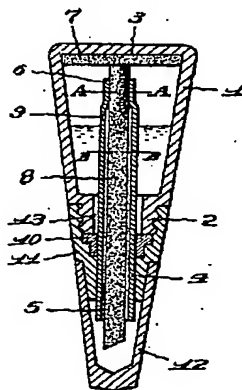
ものでもよいが先端筆記部分から所要長さだけを筆記に適當な緻密で強度の大なるものとし後端及びフェルト板7は他のフェルト状の吸収性物質を用いてもよい。

本案はかかる構造よりなるものであるからフェルト体8がフェルト保持管4に挿嵌されていて安定的であると共に過剰にインキを吸収することなく、筆記時は才1図示の状態でインキ収容筒1のフェルト板7部分に吸収されたインキの範囲内で適量に流出するものであり、通気間隙5及び通気孔9を通じて空気が置換するのでインキの流出が円滑に行われる等の効果を奏するものである。

登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すようにインキ収容筒1にその口部2から外方に突出せしめ、筒内に於ては筒底3と所要間隔を有せしめたフェルト保持管4を嵌設し、このフェルト保持管4内に通気間隙5を有せしめて基端6を筒底3に嵌設したフェルト板7に接続せしめたフェルト体8を挿入し、又フェルト保持管4はその基端6でフェルト体8を咬持せしめてなるフェルトペンの構造。

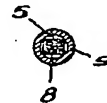
第1図



第2図



第3図



BEST AVAILABLE COPY